

校歌と校章について

玉野中学校校歌

感情をこめて (♩=194)

芳賀秀次郎 作詞
海鉾義美 作曲

丹生川のきよきさばにほりばの
とくさ あおみたりあ
あわれらここに集いて
のみちにもにあるんとこしえ
の母こう母こうたまりよ

身近に親しんでいる荷鞍山の三容と丹生川の清流、そして徳良湖にかかる虹は、私たちの郷土の象徴であり誇りである。私たちの先輩は、これらを生きたための指針として深く敬愛してきたのである。

校歌の作者・芳賀秀次郎先生は、敏感に察知して三連の歌詞に昇華してくれたのである。

一連目では、私たちの郷土が示す青々と伸びる緑の豊かな風土と環境の清らかさを丹生川の流れに託し、いちずに学ぶ自主的な人間像を求めている。三連目では、額に汗して働くことは私たちの長所であり、ますます伸ばさなければならない。三連では、その上に新しい未来をきり拓く気概をこめている。そういう私たちを、どこでも・いつでも・どこまでも支えているのが学び舎「母校」であり、ふるさと「玉野」であることを印象的に強調している。全体を通して、『ここに集いて』を繰り返しているのは、協力・協同して進む大切さの指摘である。『永遠の母校』は、これで歌詞全体を統一しているであり、“自分が生まれ育った郷土への愛と責任を忘れてはならない”という強い願いがこめられている。

三、	二、	一、	玉野中学校校歌 芳賀秀次郎 作詞 海鉾義美 作曲
永遠の歴史 おこさむ	あわれらここに集いて	丹生川の清き岸辺に ほのぼのと草青みたり	
空遠く虹かがやけり	あわれらここに集いて	あわれらここに集いて	

校章

校章は、玉野の玉を図案化し、周りに雪の結晶を配したものである。

玉磨かざれば光なしと言われます。3カ年の学業を修め、丹生川の清流を心として、人格円満な人間づくりを念願した玉であり、真っ白い雪のように混じりけのない素直な心。さらに、厳しい冬にもくじけない逞しい根性を育てようと考えられたのである。

